

おおさかカンヴァス2015

たのにから 芸術祭



公募

制作予算上限
500万円

[募集期間] **3/30㈪-6/1㈪**

都市のなかで、
まったく新しい表現は可能か?
街そのものをカンヴァスに、
未踏の領域に挑む。



Osaka Canvas Project

表現者たちよ、 街へ出て、 たたかえ。

もしも、アーティストの発表の場が美術館だけで、
デザイナーが力を発揮できるのが、紙やWEBサイトの中だけだったとしたら。
表現の世界は、やがて窮屈なものになってしまうかも知れない。

自分たちのカンヴァスを、
自分たちで広げるためのたたかいを、ここから始めよう。

アートやデザインを枠の中から解き放ち、
街の景色を、もっとおもしろく塗り替えていこう。

おおさかカンヴァス2015のテーマは、「たたかう芸術祭」。

表現の新しい可能性に挑むため、そして、街の新たな魅力を発信するために、
アーティストやデザイナー、クリエイターたちとともに、
街の多くの人々がひとつになって、たたかうことを目指しています。

中之島・御堂筋・道頓堀という大阪を代表する都市空間、
そして、水都大阪を象徴する“水の回廊”をカンヴァスに、
固定概念に囚われない伸びやかな発想を持つ作品や、
意欲的な試みにあふれた作品を募集します。



Osaka Canvas Project

特別審査員
明和電機 土佐信道 氏に決定!



明和電機 土佐信道 × ヤノベケンジ

対談「進め、好きなものを武器にして。」

ヤノベ 今回、特別審査員として土佐君が関わってくれることに大きな意義を感じて、うれしく思っているんです。

土佐 僕にどういうことができるのでしょうか。

ヤノベ おおさかカンヴァスは、大阪の街をカンヴァスに見立てて作品を募集していくというプロジェクトですが、街にぶつかっていける表現者は少くなっています。そんな中、土佐君のようにアートを軸にしながら多分野に表現活動を広げている人が審査員になることで、多彩なカテゴリーからの応募を期待しています。

アート自体も、カテゴリー分けが難しいほど領域横断的な表現が生まれていて、アーティストが建築家やファッショングループなどと作品をつくりたりしています。そこに新しい金の鉱脈があるのでないかと予感しています。土佐君が参加するということは、おおさかカンヴァスが敏感にアートの今を感じ取っている証拠とも言えるかもしれません。

土佐 アートコンペで、私的なテーマを表現する小作品を見かけることはありますけれど、街を巻き込んで、これほどの規模で行われているものは他に無いですね。

ヤノベ おおさかカンヴァス誕生のきっかけになったのは、2009年の水都大阪でした。そこで僕は、船を改造して作品化し、街の中に登場させようと試みました。その時、大阪府の方々が交渉を重ねて、表現を自由にできる状況をつくりあげてくれたのです。これはクリエイターの表現領域の拡大につながる行為で、実はそこには表現の可能性があるのではないかという議論が生まれました。

今回のテーマは、「たたかう芸術祭」ですが、土佐君も日々たたかっているのではないですか？

土佐 僕にはコアラ理論という持論があります。コアラって、すごくケンカが弱いんです。オーストラリアが大陸から離れて特殊な生態系ができ、そこにはフクロオオカミなど、たたかう動物がたくさんいました。コアラはとにかくケンカが弱いので、逃げて逃げて逃げまくるんです。そして木の上というニッチな場所で生活をはじめます。しかし、たたかいを避けることによって、コアラはコアラのマーチになるんですよ。かわいい草を獲得して、生き残るんです。明和電機も、ここでたたかっても負けるという勝負はしません。ここなら勝てるというニッチな方へどんどん行って、人がやらないことをしています。

ヤノベ 僕は常にたたかっています。たくさんの人と関わりながら、あるビジョンに向かって進んでいく時、その先には目標あるいは仮想敵があります。その相手は、特定の人であったり、ある概念や、今までの常識であったりします。そのたたかいかから、大きなエネルギーが生まれていくと思っています。

そういう意味で、「たたかう芸術祭」というテーマは、人によっては土佐君のようにたたかわないという受け止め方でできるし、前に進むための挑戦と受け止めることもできます。社会的にも「たたかう」ということが、一体どういうことなのかを考えざるを得ない今、とても刺激的なテーマだと考えています。

土佐 どんなアイデアも、まずはぶつけみてることが大切ですね。応募する時、「こういうのをつくりたい」と頭の中で思っていても、それを実現できるか分からず引っ込んでしまう方もいるかもしれません。でも、その妄想やイメージがないと表現は出発しませんから。僕たちは、アイデアを現実化していくことを「すり合わせ」と呼ぶのですが、ここもまた、大きな楽しみと手応えがあるプロセスだと考えています。

ヤノベ 審査員がこの作家はもっとおもしろいことができそうだという可能性を見つければ、そのプランが通った後もアドバイスをしたり、テクニカルな部分もサポートしながら作品を広げていきます。若い人たちが勇気づけられるようなシステムになっていると思います。

土佐 まずはシンプルに、その人の持つビジョンがおもしろいかどうかですね。

ヤノベ いかにその人がカミングアウトしているかということが、ひとつの審査基準です。もはやルールはありません。「アートとはこういうもの」と囚われず、コスプレでもファッションでも、自分の好きなものを武器にしてほしい。光るものがあれば、僕は何でも選びます。アートとかデザインという概念を潰すくらいの気持ちで殴り込んでください。



めいわでんき とさのぶみち

明和電機 土佐信道 代表取締役社長

土佐信道はプロデューサーによる芸術ユニット。青い作服を着用し作品を「製品」、ライブを「製品デモンストレーション」と呼ぶなど、日本の高度経済成長を支えた中小企業のスタイルで、様々なナンセンスマシンを開発しライブや展覧会、商品開発など、国内外ならず広く海外でも普及。音符の形の電子楽器「オタマトーン」など制作多数。2013年には文化庁文化交流使の指名を受ける。同年活動20周年を迎、赤坂ブリッヂで20周年記念ライブ、金沢21世紀美術館にて展示会を開催した。

審査員



たでた あきら

建畠 哲

(株)KADOKAWA オーカーブランド統括事業
1947年、京都生まれ。多摩美術大学教授、
国際国際美術館長、京都市立芸術大学長等
を歴任。90年、93年にヴェネチア・ビエン
ナーレ日本館コミッショナラー、横浜トリエ
ンナーレ2001のアーティスティック・ディ
レクター、あいちトリエンナーレ2010芸術
監督等を歴任。詩人、美術評論家としても
活躍中。「年度の犬」(高見原頼)、「死語の
レッスン」(萩原朔太郎賞)などの詩集の他、
多数の著書がある。



たまき やすのり

玉置 泰紀

現代美術作家、ウルトラファクトリー・ディ
レクター(京都造形芸術大学教授)
1965年、大阪生まれ。90年初頭より「サヴァ
イヴァル」をテーマに大型機械彫刻を制作。
97年にエルノブライを訪問する「アトム
スース・プロジェクト」を行なうなど社会的
メッセージを含む作品は国内外で評価が
高い。2012年農業災害記念「福島ビエン
ナーレ」参加、あいちトリエンナーレ2013
にて大規模展示、瀬戸内国際芸術祭2013で
はビートたけしとのコラボレーション作品
を発表。2014年には吉本新喜劇と舞台を作
り上げるなど、多彩な活動を継続している。



ヤノベケンジ

忽那 裕樹

ランドスケープ・デザイナー
1966年大阪府生まれ。庭園をはじめ公園や
広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院
などのランドスケープのデザインとプログ
ラムを国内外で展開。また、パークマネージ
メント、タウンマネジメントを通して、地
域の改善や魅力向上に様々な立場で関わっ
ている。「大阪府立江之島文化芸術創造セ
ンター」のプラットフォーム事業を手掛ける
とともに、民主連の水と光のまちづくり推進
組織「水都大阪パートナーズ」のプロデュー
サーとして数々の事業の企画・運営を推進中。
立命館大学客員教授。



しおやま りょう

塩山 謙

NPO法人スマイルスタイル代表
1984年兵庫県生まれ。2008年に「THE SOCIAL
DESIGN COMPANYスマスター」を設立。公共
や企業活動、教育分野において先進事業構
築を目指し日々研究と実践に取り組む。
2014年度は、既存の職業安定所の概念を
覆すワークサポート施設「ハローライフ」、
被災地の高校生とつくるキャリア教育プロ
グラム「いしのまきカフェ」「かぎかつ
こ」においてグッドデザイン賞を受賞。

おおさかカンヴァス2015

作品発表・展示エリア

中之島

公園・護岸・埋立地…
島を使った新しい表現は可能か?



新しい名所、中之島 GATE

入堀を埋め立てた更地などを活用したエリアに今春、「中之島漁港」がオープン。新鮮な魚介を買ったり食べたり楽しめる施設として大きな話題になっています。2013年にはおおさかカンヴァスの作品が展示され、昨年は劇団維新派が公演を行うなど、エリアの魅力をアートが先駆けて発信。次は、どんな表現がここから生まれるか?期待が高まります。



御堂筋

メインストリートで、
どこまで自由に遊べるか?



未来へ向かう御堂筋

高さ制限の緩和や“人”重視の道路空間が目指されるなど、新しい軸を創出する動きが進められている御堂筋では、毎秋、カーフェやミニライブ等のイベントが企画されています。この大阪を代表するメインストリートを舞台に、新しい表現と新しい都市空間の活用に挑んでください。



大阪都市魅力創造戦略では、計画期間最終年度である2015年度を都市魅力創造のシンボルイヤーと定め、年間を通じて大阪の都市魅力を内外に発信する様々な取組みが実施されます。多様な文化イベント、水辺イベントが集結する今秋、「おおさかカンヴァス」も、大阪を代表するエリアで作品を展示発表することによって、国内外ともより世界中の人々に大阪の都市魅力を強力に発信することを目指しています。

水辺の楽しみを発信する 中之島東部エリア

中央公会堂をはじめ水辺に美しい近代建築が立ち並び、島の東にはバラ園や広大な芝生広場が広がる中之島公園を擁するなど、ここには水都大阪にふさわしい美しい風景が広がっています。

このエリアでは2009年以来、「水都大阪フェス」をはじめ、水都大阪を発信するイベント等が多数開催されています。昨年は「水の都の夕涼み」と題したグリーンマーケットやオープントースが大盛況。今年も様々なイベントなどが予定されています。公園や水辺を活用し、これらの動きと連動して水辺の魅力を発信する作品をご提案ください。



アート、食、スポーツ…様々なプログラムでぎわう中之島公園
「水都大阪フェス2012」より
(写真提供:水と光のまちづくり推進会議)



(写真提供:一般社団法人水都大阪パートナーズ)



川、護岸、船着場…
作品の舞台は様々

市の中心部に口の字に川が流れる地形は世界的にも珍しいと言われています。水都大阪2009など、「水都」を発信する様々な試みが実施されているほか、船着場や大阪川床北浜テラス、橋梁ライトアップなどハード整備も着々と進んでいます。大阪が誇る「水の回廊」を舞台に、水都大阪を発信する作品を募集します。船着場、護岸、川そのもの…水の回廊を活用する様々なアイデアをぜひ!



大阪の河川を走る船との
コラボ作品も募集します

大阪の長い歴史の中で、人と物、文化をつなげられなかったのは水運でした。中之島から道頓堀にかけて都市の中心部をぐるりと囲む「水の回廊」は、水都大阪を象徴する景色です。その河川を走る船を使った、水都ならではの作品を募集します。



グルメ＆ミュージック船
ひまわり

全長8.6m／定員30名
コラボ可能日程:月曜～金曜
～21時／航行範囲は大川の源八橋～
天神橋の間

協力:大阪水上バス株式会社／NPO水辺のまち再生プロジェクト

※船の使用条件など詳細は、必ず募集要項をお読みください。
※設営場所も合わせて提案してください。(対象エリア内の船着場など)

協力:一本松海運株式会社

水の回廊

川もカンヴァスに?
水都の景色を塗り替える作品を

遊休船舶を
オブジェ化する
プランも募集!



エンジンがなく
自走しない船

全長6.7m／定員6名まで乗船可能ですが、運航はできません。
※船体の現状復旧は必要ありません。
※設営場所も合わせて提案してください。(対象エリア内の船着場など)

協力:一本松海運株式会社

道頓堀

大阪一派手な観光名所で、
ひときわ目立てる作品とは?



水辺と街の喧騒がつくる、
唯一無二の風景

2015年に開削400周年を迎えた道頓堀川では、様々な関連イベントが繰り広げられ、ますます賑わいを見せています。大阪のシンボル的な観光名所の中でも、大阪名物たちに負けない強いパワーを持った作品が期待されます。



たたかう芸術たちの 足跡と功績

アートやデザインの可能性に挑むとともに、
都市そのものの可能性を広げていく。
これまで数多くのアーティストやクリエイターが
おおかかカンヴァスに参加し、
意欲的な創作とチャレンジを繰り広げてきました。

公共空間で表現を行ううえでは、
さまざまな制約や課題があることも事実です。
しかし、その陥しき道のりを乗り越えた作品だからこそ、
より強いパワーを放ち、
より多くの人に響くメッセージを発信できるかもしれません。
そんな過去作品の中から、一部を抜粋してご紹介いたします。

「GREEN to CLEAN」 NANIWAZA(ナニワザ)



川を使った新しい体験で、
河川環境を考えるきっかけを。

川の中にグリーンに見立てた船を浮かべ、ゴルフボールを打ちこみホールインワンを狙おうという参加型作品。川の水質改善をねがう作者は、川を舞台に池ボチャゴルフを楽しんでもらうことを通じて、河川環境について考えもらう機会をつくることを目指した。一般にモノを投げ入れる行為は厳しく禁止されるが、協力企業と共に、「川にやさしいボール」の開発に取り組むなど、河川を使用するうえでの課題を一つひとつ乗り越えていった。

中之島公園／2012年度

「中之島ホテル」 西野達



公衆トイレをホテルに。
感覚を揺さぶる、異質な空間の共存。

広場の銅像や道路照明などを囲んでホテルや個室に変えてしまう作品を世界各地で展開し、大きな話題を集めている西野達氏。おおかかカンヴァス2012では、中之島公園内のバラ園にある公衆トイレの一部を取り込んでホテルを建設した。公園の公衆トイレとホテルという異質なものが共存する驚きや意外性を投げかけるとともに、公共交通をまったくのプライベート空間として経験するという「未知の体感」を提供しようと試みたプロジェクト。

中之島公園／2012年度

「H.H.H.A. (ホーム、ホテルズ、秀吉、アウエイ)」 加藤 翼



大勢の力で、構造体を引き興す。
都市の真ん中で、原初に還る体験。

競争の大きな構造体を大勢の参加者と「引き倒す」ことを目的としていたプロジェクト。中央公会堂前、大阪城公園、万博公園の3ヵ所が予定されていたが、第2回、大阪城での開催は東日本大震災の翌日だった。家をモチーフとした構造体を引き倒す行為にためらいを感じたアーティストは、周囲の人々と話し合いこの日の実施を見送る。その翌日、プロジェクトは構造体を「引き興す」協働作業へと変化し、大勢の人と気持ちを合わせて実施された。

中央公会堂前、大阪城公園、万博記念公園／2010年度

「大小便小僧」 NANIWAZA(ナニワザ)



河川の水を浄化し、作品に利用。
水と環境へのメッセージを伝える。

中之島西の堀先に仮設トイレと小便小僧を設置し、用を足す水圧を感じて小便小僧から水が噴出する仕組み。河川からくみ上げた水の浄化に取り組み、その水を小僧から噴出させることで、楽しながら環境や水質浄化について考えるきっかけづくりを目指した。小さな「小便小僧」から大きな噴水が噴出させる演出が注目を集め、500名以上の人人が体験に参加した。

中之島西の堀先／2013年度

「イッテキマスNIPPONシリーズ」
「花子」
Yotta Groove



NIPPON的なモノの
行方を問いかける、巨大作品。

無病息災を祈願して作られてきたこけしを、高さ13メートルの巨大パリーンに仕立てて展示。こけしの絵柄は、東北各地の伝統こけしの特徴を組み合わせたものにオリジナルの絵柄を足して構成された。気がつけばずっと昔からある「日本的なもの」。歴史的・社会的な影響を受け、形やたたずまいを変えながらも生き残ってきたモノたちを、どう未来へ引き継いでいくのか、NIPPON的なものとは何か。そんな問い合わせから「イッテキマスNIPPONシリーズ」は始まっている。

中之島公園／2010年度

「ミラーボールカー」 西野達



進歩の象徴である自動車を
クレーンで吊り上げ、街をクラブ化する。

ミラーチップを車体に貼り付けた車を大型クレーンで吊り下げて空中にミラーボールを出現させ、街をクラブ化する。1868年の開港から大阪の発展を支えた中之島で、進歩の象徴としての自動車を作品のモチーフに、この地の未来へ広がる影響力をミラーボールカーで表現した。もともとの作者のプランには、日中はミラーボールカーを人がたくさん集まる公道で走行させたいという案も含まれていた。公道走行・自動車吊り上げについて、安全基準などの検証が重ねられた。

中之島GATE／2013年度

2014年度 おおかかカンヴァス 発表作品 大阪随一の都市空間、 御堂筋に新たな光。

おおかかカンヴァス2014では、
大阪を代表するメインストリート
である御堂筋を舞台に、作品と
都市空間との新鮮なコラボレー
ションと、新しい“都市の顔”的
な創造を目指しました。



「御堂筋ビルボーディング」 立命館大学スタジオデザイン研究室

歩行の可能性を広げ、
もっと、人のための道路へ。

「人」重視の道路空間を目指す御堂筋で、歩くことの可能性を引き出すためのプロジェクト。御堂筋沿道のビルに歩行者へのメッセージを含んだ看板を設置したり、新たにデザインした標識のレプリカを屋内公共空間に展示したり、歩行の楽しみや可能性を広げるための試みがなされました。

沿道企業の建物等(22箇所設置)



「浪花文化そろい踏み影絵」 L E M空間工房

大阪文化の魅力を、
大型影絵で幻想的に発信。

大阪随一の都市空間である御堂筋の特徴を活かし、能、文楽、上方歌舞伎、上方落語など、豊かな大阪文化をテーマとする「光と陰のアート」。光を使ったデザインやアートワークを数多く手がけてきたL E M空間工房が生み出す巨大な影絵によって、大阪文化の魅力を発信しました。

北御堂、本町ガーデンシティ



「ふたたびアツイがやってきた！ グラサンパンダを探せ!!2」 真鍋珠実

キャラクターを探しながら、
街の魅力を見つけていく。

おおかかカンヴァス2012の選定作品「グラサンパンダ」が再登場。中学2年生に成長した2000年生まれの作者が選んだスポットにグラサンパンダを設置し、スタンプラリーを楽しみながら、御堂筋の魅力を見つめてもらうプロジェクト。

御堂筋側道内、及び沿道(9箇所設置)



「御堂筋ウォーキング」

「はたらく人～WORK AND WALK～」
おおかかカンヴァス×御堂筋まちづくりネットワーク

演出：ウォーリー木下 撮付：KAORI

スーツ姿のダンサーたちが、
はたらく街の風景を変えていく。

黒いスーツに身を包んだビジネスマンたちが御堂筋を縱横無尽に駆け巡るダンス・パフォーマンス。バイオリンとサックスの生演奏が先導されたダンサーたちの気ままで自由なアクションは、思わず一緒に歩く人も現れるなど、見慣れな御堂筋の雰囲気を楽しく一変させた。

御堂筋沿道



「幸せの黄色い椅子展2014」 まちデコレ実行委員会

椅子ひとつで暮らしが変わる、
人生が変わる。

「椅子ひとつで暮らしが変わる、人生が変わる」をテーマに、多彩なアーティストやクリエイターと一緒に「幸せの黄色い椅子」を展示。メインストリートの一帯に、歩行者が自由に座れる空間を生み出すことで、楽しみが溢れ、新しいつながりが生まれる御堂筋を提案した。

御堂筋側道内、及び沿道



「ダンボールロボット」 大阪市立東淀工業高等学校

震災で失われかけた
伝統を引き継ぐ、巨大集団造形。

宮城県塩釜高校で10年以上取り組まれてきた、ダンボールによる集団造形。しかし、東日本大震災によって保管場所が失われ、伝統も途絶えていた。その伝統を引き継いだのが大阪の東淀工業高校。引き継ぎから4年目の作品となる大型ダンボールロボットが展示された。

明治安田生命大阪御堂筋ビル



「影向一ようごう」 北村章

規格外のスケールで
描かれた松が、公共空間に現れる。

スケールの大きい豪快な作品を描いてきたアーティストが、御堂筋に面する公共の屋内空間で新作を発表。同時期に上映された能舞台と響きあう巨大絵画が展示された。能は神に奉納するかたちで演じられ、舞台の背景には神の憑代(よりし)として松が描かれる。その松をモチーフにした作品は、圧倒的なパワーを放っていた。

本町ガーデンシティ

おおさかカンヴァス推進事業 2015 募集概要

事業目的

この事業は、「第3次大阪府文化振興計画」に掲げる施策、「『大阪の街を使いこなす』～都市全体を発表の場に！」と「『地域資源を活かした大阪の魅力向上』～大阪ミュージアム構想の推進」に沿って、大阪のまち全体をアーティストやクリエイターの発表の場として活用し、大阪の新たな都市魅力を創造・発信しようとするものです。公共空間とアートのコラボレーションによって、都市や地域の新たな魅力を発見・発信することと、アーティストやクリエイターが、アイデアと想いを実現できる機会を得ることを目的とします。(この場合の公共空間とは、公共施設に限らず、不特定多数の人の目に触れる場所とします。)

募集内容

おおさかカンヴァスはこれまで5年間、河川や道路、公園などあらゆる公共空間で作品発表を行ってきました。今年は中之島・御堂筋・道頓堀及び水の回廊(堂島川・土佐堀川・東横堀川・道頓堀川・木津川)からなる「口の字」の川及び船着場等)にて作品を発表してください。

(※応募時には施設管理者等と事前交渉の必要はありません。)

発表場所

中之島・御堂筋・道頓堀を結ぶ1軸、及び水の回廊(堂島川・土佐堀川・東横堀川・道頓堀川・木津川)からなる「口の字」の川及び船着場等)にて作品を発表してください。

(※応募時には施設管理者等と事前交渉の必要はありません。)

制作予算

作品制作にあたっては、必要な制作資材及び制作補助人員等にかかる経費の全部または一部を、500万円を上限に、概ね下記の金額・点数を予定し、主催者の予算の範囲内で制作支援を行います。

制作支援の目安：

概ね 500万円の作品 — 1 点

概ね 300万円の作品 — 1 点

概ね 100～200万円の作品 — 1～2 点

50万円までの作品 — 3～4 点

※制作支援対象経費

材料費、交通費、滞在費(飲食費を除く)、機材等リース料、作品にかかる損害保険料、制作時及び発表時の補助スタッフまたは作品を完成させるために必要なパフォーマー派遣等、作品制作・展示・発表に係る場所使用料及び光熱水費、輸送費、作品設置・撤去経費、発表場所の原状復旧に係る経費、個別作品のフライヤー等作成費 等

審査基準

都市の魅力発掘・発信度／アイデアの斬新さ／実現性の高さ など

事業スケジュール

応募受付 平成27年3月30日(月)～平成27年6月1日(月)必着

結果発表 平成27年7月上旬

作品展示・発表 平成27年9月末～10月中旬(2～3週間程度)

※展示発表時期や期間は、同時に実施される他の事業等と連携しながら作品を発表することを想定しています。

応募対象者

本事業の趣旨を理解し、選考された場合には作品の完成まで、責任を持って取り組める方。(個人・グループを問いません。)

※アーティスト、デザイナー、クリエイター、地域団体、NPO、プロデューサー等

応募条件

作品は新作、既作いずれでも結構です。既に制作済みの作品の展示のみを提案いただいても結構です。ただし既作の場合は、制作に要した費用は支援対象にはなりません。また提案者がすべての権利を有するものに限ります。なお、営利を目的とするなど、本事業の目的に沿わない提案はご遠慮ください。

応募可能提案数は1名・グループにつき合計3提案まで。 提案は、応募者に全ての権利があるものに限ります。

応募方法

下記の内容をA3サイズ以内、かつ合計10枚以内でまとめ、ホッチキス止めで提出。(※提出物は返却しません)

※(ア)から(ウ)の所定様式は公式WEBサイトからダウンロードしてください。

(ア)応募用紙

(イ)作品プラン

(ウ)制作予算見積書

(エ)経歴書・過去作品事例などの参考資料(提出は自由です。)

(オ)上記(ア)から(エ)の全てを電子データで記録したCD-ROMまたはDVD-ROM

詳細

<http://www.osaka-canvas.jp>

※応募される方は、募集要項・提出書類等は上記の公式WEBサイトからダウンロードしてください。
※ダウンロードした公式WEBサイト掲載の募集要項の完全版を必ずお読みください。

まずは
応募要項を
ダウンロード

応募先

〒559-8555
大阪府 府民文化部 都市魅力創造局 文化・スポーツ課
おおさかカンヴァス推進事業 担当宛

※応募受付は、郵送のみとします。

募集に関する説明会を開催します。

4月22日、西野達氏が来場!
世界の都市でたたかってきたお話をうかがいます

平成27年

4月22日(水) 19:00～21:00

5月9日(土) 14:00～16:00

5月9日、Yottaの木崎公隆氏が来場!
巨大こけし“花子”や岡本太郎賞に輝いた作品などについてお聞きします。

大阪府立

江之子島文化芸術創造センター

enoco

大阪市西区江之子島2-1-34

(大阪市営地下鉄千日前線・中央線

「阿波座駅」8番出口から西へ約150m)

※事前予約不要(開始時間30分前から先着順に受け付け)
※西野氏及び木崎氏のトーク以外、両日とも内容は同じです



制作条件(抜粋)

- ・パフォーマンス作品やイベント、ワークショップ等は、原則として実施期間中に複数回実施いただきます。
- ・見積書は作品制作・設営・展示・発表・撤去、広報などすべての工程において想定された事項を記入してください。
- ・作品の搬入・搬出・搬入・搬出原則として作者の責任において行うこととします。また、発表期間終了後、作品は原則として作者の責任において搬去し、原状回復するものとします。(費用は制作予算に見積もってください)
- ・本事業では現金や振込、アーティスト手数料等はございません。
- ・全ての作品及び応募資料の著作権(パフォーマンスやイベントを含む)は作者に帰属します。ただし、主催者及び作品発表場所管理者は、制作作品や応募資料について、おおさかカンヴァス推進事業及び作品展示・発表場所広報のため、著作権者の承諾を得ることなく無償で利用できることとします。
- ・作品の所有権は、ワークベンチティングなど、作品発表場所から切り離せないものについては、作品発表場所所有者に帰属します。形態など作品発表場所から撤去可能なものについては、原則として作者に帰属するものとします。
- ・提案は、応募者に全ての権利があるものに限ります。万一、応募内容に関して第三者と紛争が生じた場合は、主催者は一切の責任を負いませんので、応募者自身の責任と費用負担によって解決していただきます。
- ・作品の搬入・発表に際して、作曲権管理のための管轄権は配置しません。必要な場合は制作予算に管轄権費用を計上してください。

※前年度までの要項からの変更点

これまで、演劇・パフォーマンス作品等に出演する俳優やダンサー、また作品制作を補助するシステム等について、作者やプロデューサーが指名して手配する場合は、その人件費は支給対象となりませんでしたが、今回から支給対象とします。人件費単価はそれまで設定してください。

※詳しくは、WEBサイトに掲載している募集要項の完全版を必ずお読みください。

企業・団体・府民の皆様へ

この事業の趣旨に沿った作品発表場所のご提供や、制作資料・協賛金などのご寄付も募っておりますので、ご協力をお願いいたします。



大阪ミュージアム構想
Osaka, The Museum Concept